よりよく生きる未来に向けた マルチステークホルダーによるイノベーション - オランダのチャレンジと認知症未来共創ハブを手がかりにー

第32次地方制度調査会第12回専門小委員会2019年3月28日

堀田聰子(慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 教授) shm@sfc.keio.ac.jp

実践 (介助等)

調査 研究 政策的議論 への参加

教育

つなぐ

プラットフォーム (移行の加速)

中学の頃から:介助・介護、自立生活運動との出会い

大学時代:在宅ケアにかかる全国ネットワークでの活動

国内の福祉・介護実践者たちへの 取材・交流・WS等の企画運営

1999~2004 ケデ領域における市民参加、市民・生活者・消費者との協働 人的資源管理、労働政策

:東京 (広く)能力開発と雇用管理、人材ビジネス 助手・助教→特任准教授 $2004 \sim 2010$

介護保険事業所と労働者の実態にかかる全国調査の設計・データ整備

介護職の職務遂行能力の分析

2010~2<mark>0</mark>11:オランダ(ユトレヒト大学客員教授・SOF研究員)

2011~2015:労働政策研究・研修機構研究員

オランダ<mark>の</mark>ケア提供体制(integrated careの視点から)、認知症ケア OECD諸外国のケアラー政策、ケア専門職の人材養成体系 市民社会

国際医療福祉大学大学院教授 2015~

> 認知症国家戦略国際比較 介護人材の需給構造

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授 2017~

> 住民とともに地域のウェルビーイングを育む医療・介護・福祉 住民主体の地域包括ケアの事業マネジメント 保健医療福祉関係職種の基礎教育課程の一部共通化

transition managementとの出会い

BUURTZORG

プライマ<mark>リ・</mark>ケア(家庭医療・地域看護) Teal Organization

Dementia Friendly Community (DAA)

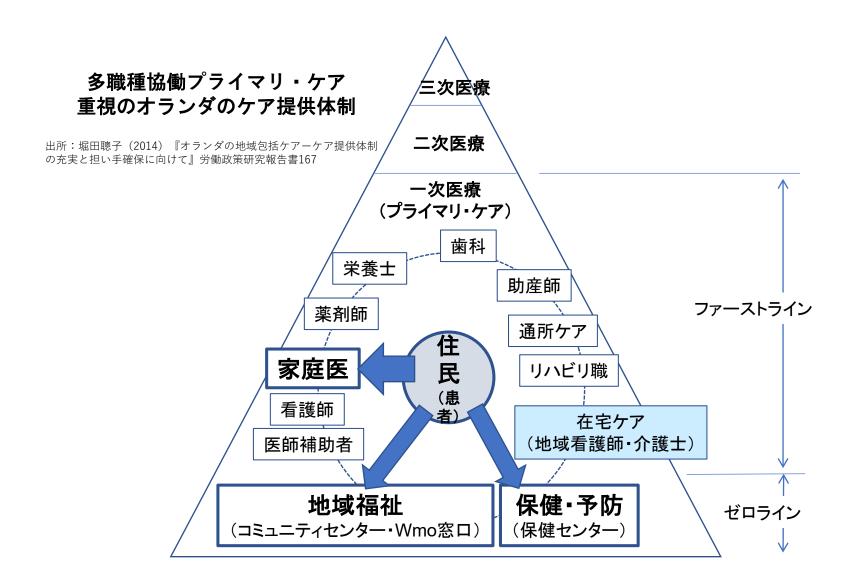
地域包括ケアイノベーションフォーラム

地域包括ケアステーション実証開発プロジェクト Compassionate Community Positive Health 認知症未来共創ハブ



未来の地域・ケアをめぐる対話と それに基づく協働・イノベーション

オランダのチャレンジ



2030年のケアと専門職のあり方・市民及び専門職の学びに関するふたつの報告

ケア専門職と教育におけるイノベーション委員会(2012-2017)

- すべての人がアクセスできて手ごろな 質の高い未来志向のケア
 - ・第1報告(2015):

新しいケアとケア専門職に向けて~その輪郭

- 市民及び専門職教育への実装に向けた示唆
 - ・第2報告(2016):

もうひとつの見方、学び方、やり方〜デジタル時代における 越境するケアと福祉の学習と教育

3つの出発点

□ケアに対する需要:2030年になにが求められるか?

□機能:疾患ではなく機能の連続性に焦点

□新しい健康の概念: 適応・みずから管理する能力

'Health as a <u>state</u> of full physical, mental and social well-being' (WHO, 1948)



'Health as the <u>ability</u> to adapt and self manage in the face of social, physical and emotional challenges' (Huber et al, BMJ 2011)

健康の新しい概念 (M Huber et al, 2011, 2016他)

「社会的・身体的・感情的問題に直面したときに適応し、 みずから管理する能力としての健康(ポジティヴヘルス)」

- □ 身体的機能:健康感、体調、症状と痛み、睡眠、食事、耐久力、運動
- ■メンタルウェルビーイング:記憶力、集中力、コミュニケーション力、幸福感、 自己受容、変化に対する適応、状況をマネージしている感覚
- □ 生きがい:意味のある生活、生きる意欲、理想を達成する意欲、信頼できる、 受容力、感謝の心、学び続ける
- □ 生活の質:楽しめる、幸福感、のびのびできる、バランス感、安心感、住まい、 生活を賄える経済力
- □ 社会参加:社会的な接触、真剣にとらえてもらえる、一緒に楽しいことができる、 支援を得られる、帰属感、意味のある活動、社会に対する関心
- □ 日常機能:自分の面倒を見られる、自分の限界を知る、健康についての知識、 時間管理、金銭管理、働ける、支援を求めることができる

アプローチ



- 人口動態・疫学統計、専門職教育の現状、対人支援専門職とその教育
- (65歳以上については機能面での問題で分類)
- 国レベルThink-Tank2013:「Caring for health」をテーマに文献レ ビュー、574人の専門家と議論"*An end to doctoring*"…健康行動、参 画、セルフマネジメント、アウトカムに基づく支払い
- □ フォーカスグループ2013: 「2030年のケアのかたち」利用者、専門 職、アドミニストレーター、管理者、政策担当者、研究者、教育者に よる28グループ(健康の新しい概念は市民とそのネットワークにとっ て何を意味するか、どのようにそれを支援できるか、実現には?)
- □ テクノロジーの分析:「テクノロジーは将来のケアに対する需要にど のように貢献するか」専門家ミーティング、インタビュー
- 専門職によるディベート:全国、インキュベーション地域から
- □ インキュベーション地域Think-Tank: 「自分のためにできること、 テクノロジーの可能性、社会的なつながりの貢献、どんな専門職ケア が求められ、それはどこで組織されるのか」利用者、事業者、保険者、
- □ 国レベルThink-Tank:インキュベーション地域Think-Tankの議論を
- □ フォーカスグループ2014:30の国レベルの関係団体の利用者、専門 職、管理者、政策担当者、自治体、研究者からなる34グループ370人

インキュベーション地域

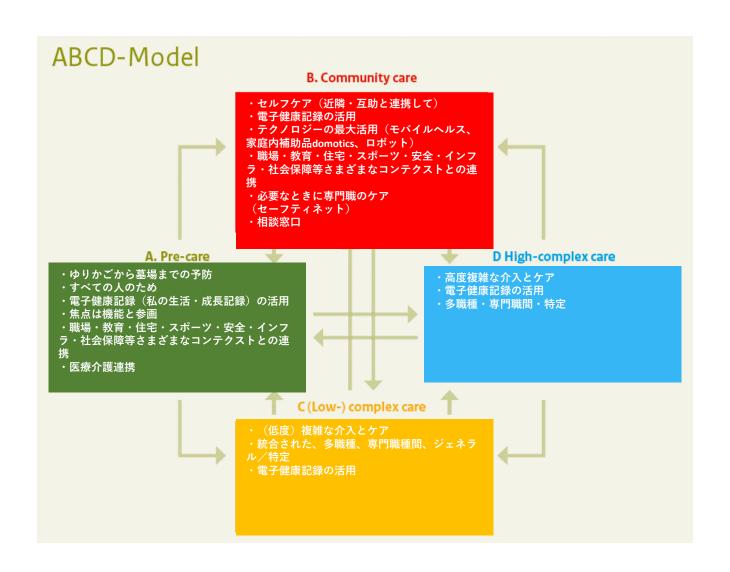
□ 4地域:

- Friesland,
- Amsterdam-Amstelveen
- Rotterdam
- Heerlen
- □ 分析:TNO(オランダ応用科学研究機構)による2030年までの人口動態見通しをベースにした将来の住民の機能、慢性疾患、精神疾患、社会心理的問題、知的障害
- □ インキュベーション:市民、ケア事業者、教育機関、保険会社、市町村、州等による分析結果の共有と対話に基づく2030年のケア予測 ~2030年のケアマップの作製
- 実装:ベストプラクティス(既存プロジェクトを基盤として活用)の分析・共有(ビジョン・目的、方法、アウトカム、ほかの場所での適用)とさらなるアクション、ナレッジシェアリング、

モニタリング・評価



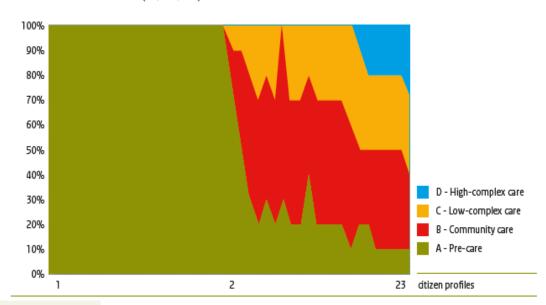




Citizen profiles

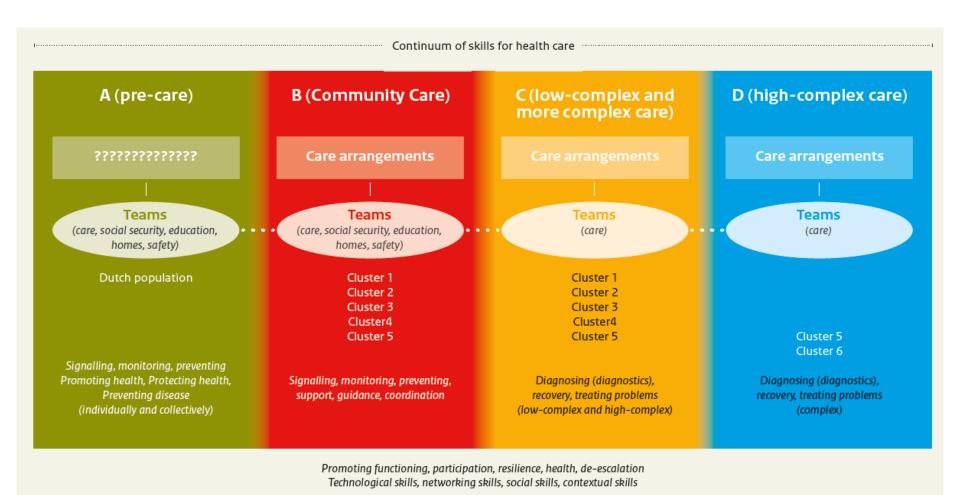
- No problem
- Low-complex problem
- One or more chronic disorders⁸
- Functioning problems⁹ and chronic disorder(s)
- Psychological disorder
- Psychological disorders and chronic disorder(s)
- Functioning problems, chronic disorder(s), psychosocial problems
- 8. Psychosocial problems
- 9. Psychological disorder, psychosocial problems and chronic disorder(s)
- 10. Psychological, functioning problems, chronic disorder(s)
- 11. Low-complex problem, chronic disorder(s)
- 12. Low-complex problem, functioning problems, chronic disorder(s)
- 13. Low-complex problem, functioning problems, psychosocial problems
- 14. Low-complex problem, mental disorder, chronic disorder(s)
- 15. Low-complex problem, psychosocial problems, chronic disorder(s)
- 16. Low-complex problem, psychological disorder, functioning problem, chronic disorder(s)
- 17. High-complex problem
- 18. High-complex problem, chronic disorder(s)
- 19. High-complex problem, functioning problems, chronic disorder(s)
- 20. High-complex problem, functioning problems, psychosocial problems
- 21. High-complex problem, psychological disorder, chronic disorder(s)
- 22. High-complex problem, psychosocial problems, chronic disorder(s)
- 23. High-complex problem, psychological disorder, functioning problems, chronic disorders

TOTAL DUTCH POPULATION (17,000,000)



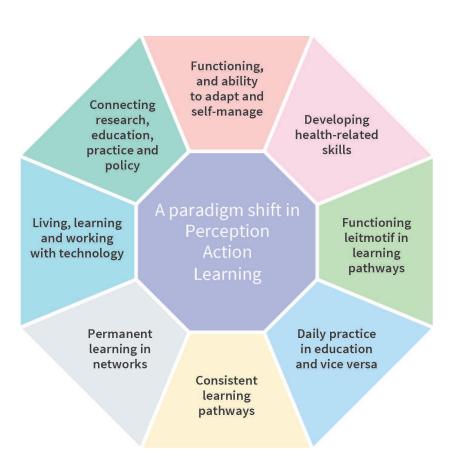
Clusters of citizen profiles

- 1. Only low-complex problems.
- 2. Chronic disorders without or with functioning problems and/or psychosocial problems.
- Chronic disorders without or with chronic disorders, functioning problems and/or psychosocial problems.
- 4. Low-complex problems with (combinations of) chronic disorders, psychological disorders, functioning problems and/or psychosocial problems.
- 5. High-complex problems with (combinations of) chronic disorders, psychological disorders, functioning problems and/or psychosocial problems.
- 6. Only high-complex problems.



専門職の自律→共創(co-creation)へ 専門職の種別→スキルの連続性へ

新しい学び方と新しい教育



- 専門職:未来のケアに対する需要を満たす新たなスキルと価値の必要性~本人の機能の回復・増進にはなにが必要か(ネットワーク構築、テクノロジー、社会的スキル、コンテクスト理解、ケアの縮小化!)
- □ 市民:学ぶ力と健康に関する能力の涵養~初 等・中等教育から
- ケアパクト(2015年〜保健福祉スポーツ省と教育文化科学省が推進):医療・介護福祉事業者、教育機関、地方自治体の三者による革新的パートナーシップに基づく地域の協働を促進
- 職業プロファイル (コンピテンシー) / 資格・教育プロファイル (カリキュラム) / 教授法
- ケアパクトにおける示唆を教育に反映できる 「余地」

PILLARS FOR **POSITIVE HEALTH**

(Institute for Positive Health)

- Basis ADL (Activities of Daily Living)
- · Instrumental ADL
- · Ability to work
- · Health literacy



DAILY



FUNCTIONING

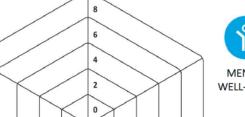


SOCIAL - SOCIETAL PARTICIPATION

- · Social and communicative skills
- Social contacts
- · Meaningful relationships
- · Experiencing to be accepted
- · Community involvement
- · Meaningful work/occupation



- Medical facts
- Medical observations
- Physical functioning
- · Complaints and pain
- Energy





MENTAL

- · Cognitive functioning
- · Emotional state
- · Esteem/self-respect
- Experiencing to be in charge/ manageability
- · Self-management
- · Understanding one's situation/ comprehensibility

· Purpose/meaningfulness · Striving for aims/ideals · Future prospects Acceptance

WELL-BEING · Resilience



- **MEANINGFULNESS**



QUALITY OF LIFE

- · Quality of life/well-being
- · Experiencing happiness
- Enjoyment
- Perceived health
- · Flourishing
- Zest for life
- Balance



https://nakamaaru.asahi.com/article/11963896



Designing for dementia.

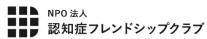
認知症未来共創ハブ

認知症とともによりよく生きる未来をつくる



社会の課題に、市民の創造力を。 issue + design





いま、世界で認知症のある方の数は約3,560万人、2050年までに 1億人を超え、日本でも65歳以上で認知症のある方は、2012年時点で 約462万人、2050年には1,000万人を超えると推計されています。

あなたやあなたのご家族、お友だち、ご近所、同僚のなかにも、 きっと認知症とともに生きる方々がいらっしゃることでしょう。

認知症になっても、できるだけ自分のことは自分で、家族のなかで、 仲間とともに地域で、職場で役割をもって、笑顔で過ごす方々が 少しずつ増えてきました。

日本各地で、世界中で、その方々の姿や声が、社会の灯りとなる力を放っています。

しかし、自分や身の回りの人が認知症になったことで、日常生活や 仕事で壁にぶつかり、うずくまっている人たちもたくさんおられます。

(裕さん)

あんたが認知症になったとき、「される側」になったとき、 どうするん?どう思うん?食事1つとっても、この人今日は、 食いとうないかもしれん、それを無理やり食わしてる。 だれでもあるじゃろうが、腹ぐあい悪いとか、今日は汁物 だけでいいわとか、「ジブンゴト」言うじゃん。 じぶんの生活に当てはめてみれば、考えられること、 たくさんあるじゃろ。

水谷佳子「認知症ケアを再考する:認知症当事者の声から」(2018)『日本認知症ケア学会誌』17(2)



そこで、私たちは「**認知症とともによりよく生きる未来」をつくる活動**を、 皆さんとともにはじめたいと思います。

「認知症未来共創ハブ」とは、**当事者の思い・体験と知恵を中心に、認知症のある方、家族や支援者、地域住民、医療介護福祉関係者、企業、自治体、関係省庁及び関係機関、研究者らが協働し、ともに未来を創る活動体で**す。

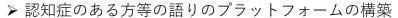
認知症とともに生きる方々が安心して過ごせる地域が増えるために。

その暮らしを支え、豊かなものにする事業・サービスがどんどん生まれるために。

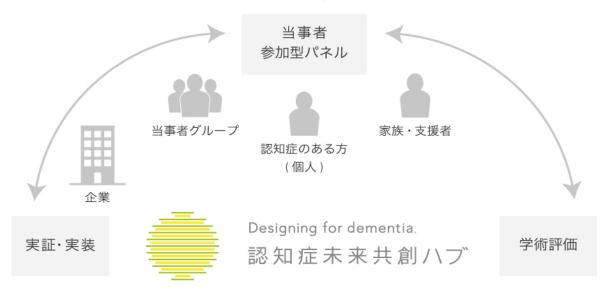
社員・職員やその家族が認知症になっても働き続けられる職場が 当たり前になるために。

あなたやあなたの大切な人が認知症になっても笑顔で暮らせるために。

そして、あなたの思い・体験と知恵を、いまと未来に向けて活かすために。



▶ コーディネート人材の養成、マッチング



- ▶ 認知症フレンドリーなサービス・ 商品開発のガイドライン整備
- ▶ 認知症のある方と共にサービス・ 商品開発に取組む事業の推進
- ▶ 認知症フレンドリーな事業に対す る社会的投資の推進
- ▶ 実証フィールド(リビングラボ) の構築





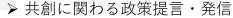
医療 · 福祉 関係者



研究者

- ▶ 認知症のある方の体験・知恵の 構造化と学術的知見の融合
- ▶ 認知症のある方の社会参加・就労の 推進基盤の整備
- ▶ 共創による施策・事業・サービス・ 商品開発の知見収集と効果検証

政策提言



▶ エビデンスや学術的な調査研究に基づく政策提言・発信

認知症とともによりよく生きる未来

認知症とともに生きる希望宣言

http://www.jdwg.org/

1

自分自身がとらわれている常識の殻を破り、 前を向いて生きていきます。

2

自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、 社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。

3

私たち本人同士が、出会い、つながり、 生きる力をわき立たせ、元気に暮らしていきます。

4

自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、 身近なまちで見つけ、一緒に歩んでいきます。

5

認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、暮らしやすいわがまちを一緒につくっていきます。

□評議員(五十音順・敬称略)

粟田 主一(東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長)

黒川清(日本医療政策機構代表理事)

鈴木 森夫 (公益社団法人認知症の人と家族の会 代表理事)

丹野 智文(おれんじドア実行委員会 代表)

新田 國夫(日本在宅ケアアライアンス 議長)

□アドバイザー (敬称略)

Jeremy Hughes

(Vice Chair World Dementia Council / Chief Executive of the Alzheimer's Society in the UK / Chair of the UK Dementia Action Alliance)

□運営団体

慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター 日本医療政策機構 認知症フレンドシップクラブ issue+design

□運営委員

筧 裕介/栗田 駿一郎/小菅 隆太/猿渡 進平徳田 雄人/乗竹 亮治/堀田 聰子(代表)

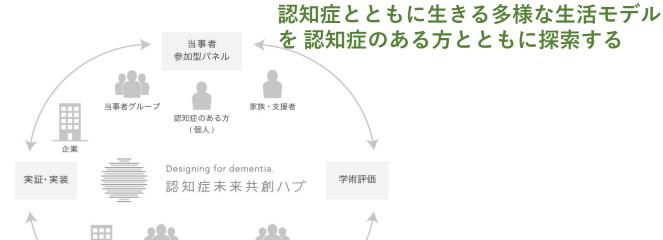
認知症当事者インタビュー&参加型パネル

認知症のある方やそのグループ、家族や支援者等の「語り」のプラットフォーム

蓄積した語りを認知症のある方とともに分析・編集・発信

当面、当事者100人を目標に、インタビューを実施中

当事者にインタビュアーとしても参画いただく予定



目的2: 認知症のある方とともに、 生活課題を解決し、生活を豊かにする 施策・事業・サービス・地域を創る

政策提言

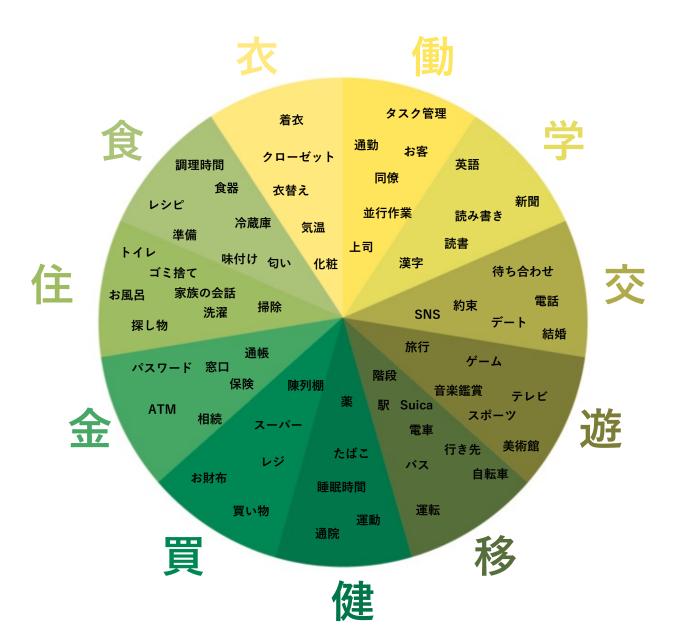
目的3:

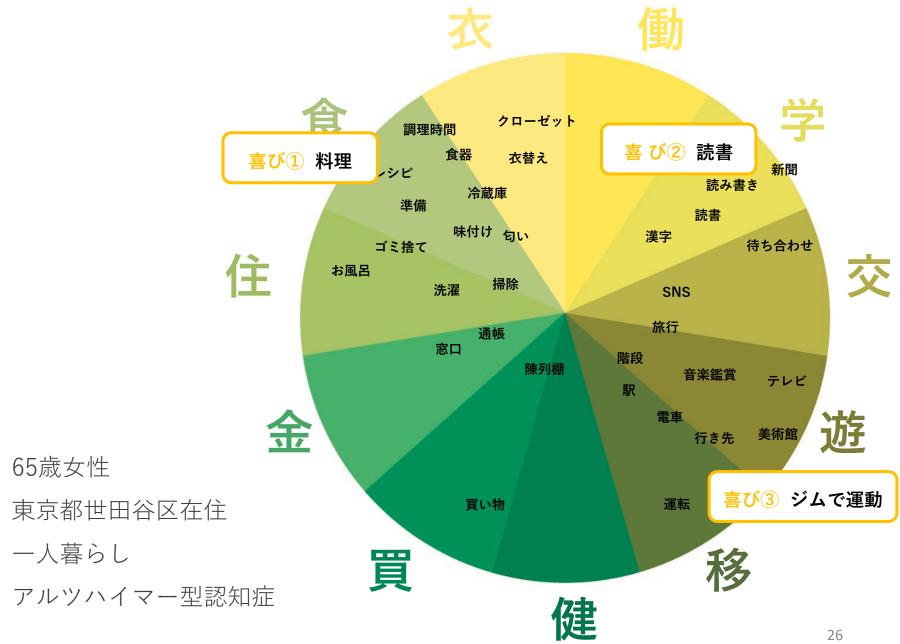
目的1:

認知症とともによりよく生きる 現在と未来を支える政策へと活 かす

(丹野智文さん)

できないときめつけて、できることを奪わないで欲しい。 僕達が求めているのは、守られることではなく、 周囲の手を借りながらでも、自分で**課題**を乗り越え、 自分が**やりたいこと**をやり続けたいのです。





喜び

世界各国の色々な料理を作ること

倒す、こはす、皿を割ることが増えるようになる 戸棚の中に何が入っているのかわからない。 料理しながら、味見用の皿やスプーンをいくつも出す

適度な茹で時間がわからない

コンロに2つ以上の鍋をかけると、

1つは意識から消え鍋を焦がす

ガスを消し忘れる

レシピが思い浮かばない

料理の品数が減る

パッと考えて、必要な食材を選ぶ段取りができない ひき肉で作る料理が、麻婆豆腐以外に思い浮かばない 単純なものばかりで、何品も作れない。

> 作りながら、材料をどう切るんだっけ、 味付けは?となる

味がわからない

みそ汁を作るのが難しい カンで作るが、味が薄いと言われる

料理をしながら「ああ、いい匂い」と思うことがない コーヒーのにおいもしない

目的の食材を見つけられない 必要なものが揃えられない

何度も買ってしまう

クローゼット

冷蔵庫に入っているものがわからない

食器

調理時間

レシピ

F順 冷蔵庫

味付け

匂い

買い物

©認知症未来共創ハブ

衣替え

喜び

車でジムに行き マシンで思いっきり汗を流す

思いっきり体を動かして汗をかきたい散歩だけでは、爽快感が得られない。

ジムに行きたい。ロッカーと着替えであきらめる ロッカーのカギがかけられない(抜く、さす) 着替えに1時間~3時間かかる

薬で体調がすぐれない 気圧・寒暖差で体調がすぐれない 車に乗ってどこに行く予定だったかを忘れる 運転することがものすごく疲れる ルートも間違わないが、何も考えられないほど疲れる

赤信号だからとまる、ということを忘れそうになる アクセルとブレーキを踏み間違えそうになる

バックの際、左右がわからなくなり、 駐車が困難になる

運転 重 看板 疲労 信号 運動不足 免許 散歩 ジム 通院 ロッカー タイミング 着替え 薬 気圧 倦怠感 寒暖差 スポーツ



Designing for dementia.

認知症未来共創ワークショップ

ともによりよく生きる未来をデザインしよう

認知症未来共創ワークショップ 開催概要

参加者



認知症未来共創ファシリテーター



認知症未来共創ワークショップ 開催概要

テーマ: 2018年春より、四半期に1回。異なるテーマで開催

認知症と食生活

認知症と住まい

認知症と移動・交通

認知症と仕事















認知症とお金

認知症と情報・通信

認知症と娯楽

認知症とまちづくり

認知症未来共創ワークショップ 開催概要

プログラム

step 1 当事者生活実態 インタビューの報告



step 2 課題の共有 と整理



step 3 未来シナリオ (事業・まちづくりアイデア) の描写



(参考) イングランドにおけるDFC認証に向けた自主基準

- 保健省予算に基づきアルツハイマー協会が スポンサーとなり、関係団体の協働により British Standards Institutionのライセンスを得て 発行
 - Building blocks
 - People, place, process
 - 行動領域 芸術・文化・娯楽・レクリエーション ビジネス・店舗 子・若者・学生

地域・ボランティア・宗教団体

消防・警察

医療・介護

住宅

交通

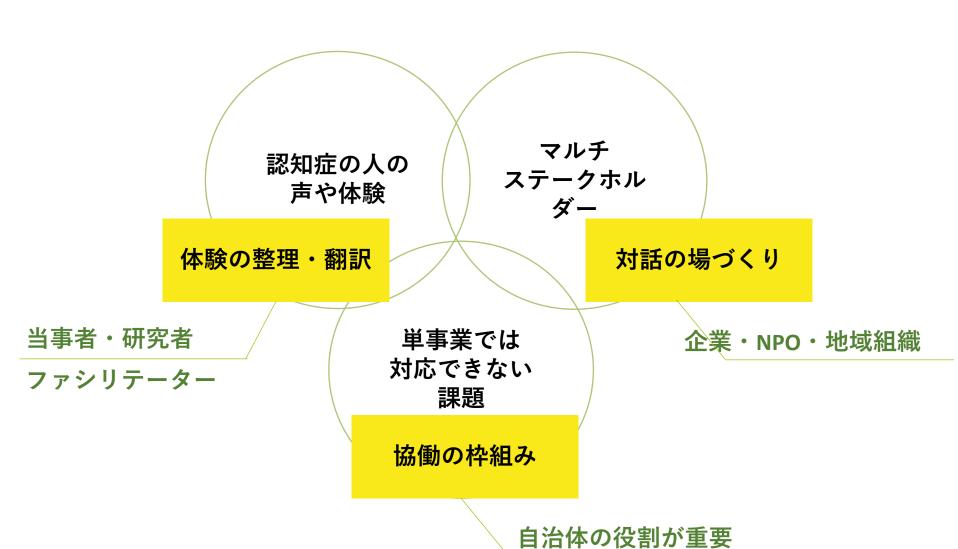
- DFCの認証
- 評価





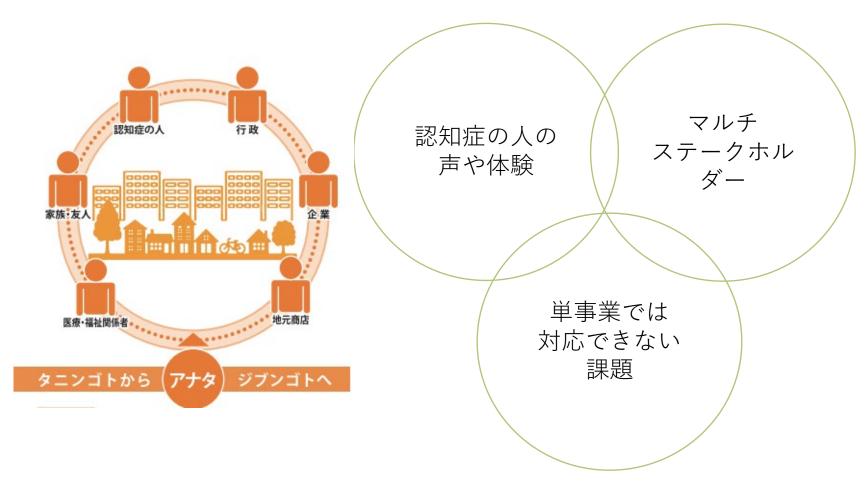
bsi.

認知症フレンドリーコミュニティへの流れを加速するには



町田市のチャレンジ

https://www.dementia-friendly-machida.org/





Dementia Friendly Community Outcome Index in Machida City (Tokyo) 16 " I " Statements

- 1 私は、早期に診断を受け、その後の治療や暮らしについて、 主体的に考えられる。
- 2 私は、必要な支援の選択肢を幅広く持ち、自分に合った支援を 選べる。
 - 私は、望まない形で、病院・介護施設などに入れられることは
- 3 ない。望む場所で、尊厳と敬意をもって安らかな死を迎えること ができる。
- 私は、私の言葉に耳を傾け、ともに考えてくれる医師がいる。
- 私は、家族に自分の気持ちを伝えることができ、
- 家族に受け入れられている。
 - 私の介護者は、その役割が尊重され、
- 6 介護者のための適切な支援を受けている
 - 私は、素でいられる居場所と仲間を持っており、
- 7 一緒の時間を楽しんだり、自分が困っていることを話せる
- 私は、趣味や長年の習慣を続けている

Dementia Friendly Community Outcome Index in Machida City (Tokyo) 16 " I " Statements

- 私は、しごとや地域の活動を通じて、やりたいことにチャレンジし、 地域や社会に貢献している
- 10 私は、認知症について、地域の中で自然に学ぶ機会を持っている 私は、経済的な支援に関する情報を持っており、
- 11 経済面で生活の見通しが立っている
- 12 私は、地域や自治体に対して、自分の体験を語ったり、 地域への提言をする機会がある
- 13 私は、認知症であることを理由に差別や特別扱いをされない
- 私は、行きたい場所に行くことができ、気兼ねなく、14 買い物や金恵な彩しなるよう。
- 14 買い物や食事を楽しむことができる
- 15 私は、支援が必要な時に、地域の人からさりげなく 助けてもらうことができる
- 16 私たちも、認知症の人にやさしいまちづくりの一員です。





一般的な地域で町田市のような展開は簡単ではない 町田市であっても、まだ十分とは言えない

地域での展開イメージ

マルチステークホルダーによる対話 横展開・アクション改善 当事者インタビュー 協働アクション 効果測定

https://dac.tsukuba.ac.jp/100dfc/index.html



to become a Dementia Friendly Community

このサイトは、日本各地の認知症フレンドリーコミュニティ(Dementia Friendly Community:認知症の人

各地の優れた取り組み、面白い取り組み、インパクトのある取り組みを見える化し、日本全国にある1800の市 区町村すべてがDFCを目指す社会になっていけばと考えています。100の地域が、情報を共有し刺激をし合える ようなプラットフォームになればという願いをこめて100dfcというタイトルをつけました。

このサイトは、各地の皆さんからの報告に基づいて掲載しています。自分たちのまちの情報も掲載したい

100dfc立ち上げ実行委員会

徳田雄人 NPO法人認知症フレンドシップクラブ 理事

猿渡進平 認知症まちづくりファシリテーターチーム / 医療法人静光園白川病院 医療連携室長

河野禎之 筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 助教



東京都町田市

認知症の人の働く場づくり・地域活動への参加

BLGでは、認知症の人たちがやりたいことを出発点に、ホンダの販売店で展示用の車を洗ったり、青 果卸店でたまねぎの皮をむく作業をするなどをしています。全ての仕事ではありませんが、謝礼が支

□パートナー当事者

対象: 認知症のある方、ご家族、当事者団体、家族団体など

会費: 無料

内容:

- 認知症未来共創カンファレンスへの参加(年1回)
- 認知症未来共創ワークショップへの参加(年4回)
- 個別自治体のまちづくり、企業の事業開発ワークショップへの参加
- 認知症とともによりよく生きる社会に向けた国内外の事例や国際潮流の共有
- 認知症未来共創リサーチへの参画(個別インタビュー、郵送・インターネット調査)
- * 内容・時間に応じた報酬をお支払い致します。

□パートナー自治体

対象: 地方自治体

会費: 無料(有料のファリシテーター研修受講と認知症関連の取り組み・活動に関する調査協力が条件)

内容:

- 事前ヒアリングおよび認知症まちづくりファシリテーター講座への参加(有料)
- 自治体職員向け認知症まちづくり入門講座(オンライン配信)への参加
- 認知症未来共創カンファレンスへの参加(年1回)
- 認知症とともによりよく生きる社会に向けた国内外の事例や国際潮流の共有
- 認知症未来共創リサーチへの協力
- * カンファレンス・ワークショップ等は一部会費を頂きます。

□パートナー企業

会費: 300万(年間)

内容:

- 認知症未来共創カンファレンスへの参加(年1回、1社2名まで)
- 認知症未来共創ワークショップへの参加(年4回、1社2名まで)
- 認知症とともによりよく生きる社会に向けた国内外の事例や国際潮流の共有
- 認知症未来共創リサーチパネルの事業開発の活用*リサーチ費用は別途

□寄付会員

対象: 認知症に関係・興味・関心のある個人・法人